Simmering, V. R., & Perone, S. (2013) - sugiura (2022 年 11 月 16 日 13 時 05 分 19 秒)

Simmering, V. R., & Perone, S. (2013). Working memory capacity as a dynamic process. *Frontiers in psychology*, 3, 567.

=====

@article{simmering2013working,

```
title={Working memory capacity as a dynamic process},
author={Simmering, Vanessa R and Perone, Sammy},
journal={Frontiers in psychology},
volume={3},
pages={567},
year={2013},
publisher={Frontiers Media SA}
```

}

=====

Working memory は、容量固定で変化しないという従来の見解に対し、一つの要因で容量が決まるのではなく、複数の要因で決まるという説も説得力がなく、同じ年齢でも容量が違ったり、測定するタスクによっても変わってくるし、年齢とともに増える傾向にあるので、容量は固定というのではなく、もっと複雑なダイナミックな仕組みで、容量は増える、と考えるべきだという見解。

しかし、基づいている先行研究のほとんどは 12 歳ころまでのデータで、そうだとしたら、認知機能の発達と完成という臨界期ころまでには、同様に（認知機能の一部として）発達すると考えられるが、それ以降も増え続けるとまでは言えない。生まれてから固定というものではなく、徐々に増えるけれども、臨界期以降も増えるとは言えないのではないか。

認知機能の一部なので、認知機能の発達している間は増えるけれども、その完成以降は、ほぼ「固定」と考えたほうが合理的ではないかな？